





もだ散策はじめるマップ

マイマイ通り~ペリーロード~大川端







発行元: 下田市役所 建設課 都市住宅係

下田は古くから東西海上交通の重要な場所でした。ここ旧下田町 (旧町と呼ぶ)は、古くから風待ちの港としてたくさんの船が立ち寄り、いろいろな人々を受け入れながら、漁業や商業 で発展した湊町です。また、幕末にペリー提督率いる米国海軍が黒船で来航し、日本開国の舞台として脚光を浴びた町でもあります。

旧町を散策すると、そんな歴史や文化を感じさせるものをたくさん見つけることができます。新しい、古い、なつかしい、色々なものが混在している旧町をぶらり気ままに歩いてみましょう!



旧町のまちなみ

東西南北に走る整然と区画された町 割りで、海と並行する南北方向は場所 によって通りが交差点でずれている点 などが特徴的です。寛文8年から延宝 6年にかけて作製されたと考えられる 絵図 「豆州下田港之図 | を見ると、この 町割りが江戸時代前期には形成されて いたことがわかります。

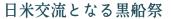
旧町の魅力的な祭り

下田太鼓祭り(下田八幡神社例大祭)

この町の人たちが大切にしているお祭りが、 下田八幡神社の例大祭、通称『下田太鼓祭り』 です。毎年8月14日と15日の二日間、旧町内 が最高潮に盛り上がります。

太鼓は、大阪夏の陣で大勝した徳川軍が大阪 城に入場する節に威風堂々と十気を鼓舞して打 ち鳴らした陣太鼓の様子を真似たものです。

各供奉(ぐぶ)道具を全て綱でつなぎ、若い 衆が総出で押し上げ、弧を描かせて橋を作る「太 鼓橋 は、必見です。



ここ旧町にある通称『ペリーロード』は、ペ リー提督が、大砲を曳く300くらいの水兵を先 頭に軍楽隊の演奏とともに了仙寺まで行進した といわれる通りです。

現在も下田の日米交流の歴史は続いていて、 その代表的なものが「黒船祭」です。昭和9年 から始まった歴史あるお祭りで、毎年5月の第 3金曜日から日曜日までの3日間行われ、記念 式典や米海軍軍楽隊が行進する公式パレード、 了仙寺で当時を再現するコミカルな再現劇「下 田条約調印」、海上花火大会など、多くのイベ ントで盛り上がります。





旧町で使われている建築資材

なまこ壁

黒字に白い基盤目が斜めに交差した模様の 壁は、なまこ壁といいます。下田には、なまこ 壁を用いた歴史的な建物が多く残っていて、 特にここ旧町にたくさん残っています。なま こ壁は、建物の壁面に平瓦を並べて貼り、目地



と呼ばれる継ぎ目に漆喰(しっくい)をかまぼこ型に盛り上げて塗る左官工法 で、その形が海にいる「なまこ」に似ていることから、その名が付けられたとい います。風雨に強く、防火、保温にも優れ、江戸時代以降普及し、かつては伊豆 各地でみられました。

伊豆石

古い建物にみられるマーブル模様の石壁は、 地元産石材の伊豆石です。下田には、この伊豆 石を用いた建造物が多く残っていて、建造物の 基礎や石蔵、石塀だけでなく、石灯篭(とうろ う)や記念碑など様々な所で利用されています。



伊豆石には2種類あって、火山から流れ出した溶岩の「堅石(かたいし) | と、火 山が噴出した火山灰や軽石からなる凝灰岩(ぎょうかいがん)と呼ばれる「軟石 (なんせき) | に大きくは分けられます。下田を含む伊豆半島南部は、伊豆軟石の 採掘が盛んで、下田における石材生産は、近世後期から明治にかけて住民の多 くが関わった花形産業でした。

数は少なくなってきましたが、まだまだあります。 なまこ壁と伊豆石の両方を用いた建物が下田らしい。

スマートフォン・タブレット でお手軽&じっくりお散歩

オンライン地図サービス「Stroly(ストロリー)」でマップを公開しています。右のQRコードを読み込むとマップが開き、GPS機能をONにす るとマップ上に自分の位置が示されます。現在地を確認しながら歩けるので便利です。地図に入りきらなかったここだけの情報も載っています。

★Stroly のマップ情報は随時更新しています。ぜひチェックしてみてください!



